

情報を「音声」で届ける新しい仕組み

「Uni-Voice(ユニボイス)」を導入しました!

本冊子には、目の不自由な方や文字を読むことが難しい方をはじめ、より多くの方に情報をお届けできるよう、音声コード「Uni-Voice」を取り入れています。

Uni-Voiceとは?

紙面に印刷された音声コードをスマートフォンの専用アプリで読み取ることで、記載内容を音声で聞くことができる仕組みです。



ダウンロードはこちらから



Uni-Voice Blind
(ユニボイスブラインド)



App Store



Google Play

使い方

- ①アプリを入れる**
スマートフォンでアプリ(無料)をダウンロードします。
App StoreまたはGoogle Playで「Uni-Voice(ユニボイス)」と検索
- ②アプリを開く**
アプリを起動すると、カメラが立ち上がります。
- ③コードを読み取る**
冊子のユニボイスコード(二次元コード)にカメラをかざします。
- ④音声で内容を聞く**
記載内容が音声で読み上げられます。

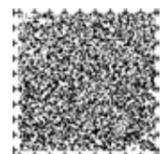
ご寄付のお礼 (令和7年1月~令和7年12月)

貴重なご厚志ありがとうございました。(五十音順、敬称略)

一般社団法人 京都馬主協会
近江八幡ライオンズクラブ
檀原ライオンズクラブ
株式会社エスケーエレクトロニクス
株式会社東急コミュニティー
株式会社ハウスバンクインターナショナル
株式会社ホテルプリンセス京都
株式会社舞扇堂
亀岡ライオンズクラブ
関西遊技機商業協同組合
京セラ株式会社 京都伏見事業所
京セラ株式会社
京都伏見事業所 従業員一同
京セラ株式会社 従業員一同
京セラ株式会社 本社
京セラメディカル株式会社 本社
京セラ労働組合 京都支部
京セラ労働組合 伏見分会

京都桂ライオンズクラブ
京都賀茂ライオンズクラブ
京都鴨川ライオンズクラブ
京都グレースライオンズクラブ
京都紫明ライオンズクラブ
京都醍醐ライオンズクラブ
京都橋ライオンズクラブ
京都チェリーライオンズクラブ
京都天神川ライオンズクラブ
京都ときわライオンズクラブ
京都東ライオンズクラブ
京都南ライオンズクラブ
京都むらさきライオンズクラブ
京都室町ライオンズクラブ
京都やわたライオンズクラブ
京都淀ライオンズクラブ
京都洛翠ライオンズクラブ
京都洛東ライオンズクラブ

京都洛北ライオンズクラブ
京都洛陽ライオンズクラブ
公益財団法人京遊連社会福祉基金
越野 真巳子
陳 大鍼
西村 正憲
弁護士 佐々木 真一郎
北海道月形高等学校
水口ライオンズクラブ
南大内児童館 学童クラブ父母の会
もり鍼灸接骨院
山城ライオンズクラブ
山本 さくら
ライオンズクラブ国際協会335-C地区
(地区スペシャルティクラブ・FWT委員会)
RisingGroup合同会社
劉 育銓
※その他複数の匿名の方からもいただいています。



福祉のまちづくり 194号 2026年2月1日発行

発行/社会福祉法人 京都市社会福祉協議会

TEL. 075-354-8731 FAX. 075-354-8736

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側)「ひと・まち交流館 京都」

【発行人】高屋宏章 【編集人】芳賀正昭 【編集協力】IG株式会社

ホームページで京都市社協の活動を映像でご覧いただけます。携帯電話でも右のQRコードから簡単アクセス!

京都市社協



京都市社会福祉協議会では、京都市における環境負荷の管理・低減の規格であるKESステップ2を認証取得し、環境負荷軽減に努めています。



この広報誌は一部共同募金の配分金で発行しています。



kyoto ところつながるプロジェクト

kyotoところつながるプロジェクトでは、多様性を尊重し、全ての人が安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

誰ひとり取り残さない社会をめざして



認知症を正しく広める啓発活動

認知症啓発プロジェクト チームおれんじサロン ひと・まち 若年性認知症当事者とともに、京都から、新たに認知症を啓発するプロジェクトを進めています。

2025(令和7)年10月開催の「つながるフェス」では、プロジェクトに参加している学生が主体となって多くの方に認知症を正しく知ってもらう啓発活動を行いました! 当日は“若年性認知症”についての街頭インタビューや認知症ご本人のインタビュー動画を視聴できるコーナー、認知症の方の日常生活での困りごと・対応方法についてのクイズコーナーや紙芝居コーナー等を設け、幅広い年代の方々に体験いただくことができました。

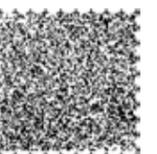
おれんじサロン ひと・まち… 65歳未満で発症する“若年性認知症”の方を対象とした交流会



INDEX

| | |
|--------------------------------------|----|
| ところつながる作品展 | 2 |
| 地域とのつながりづくりに取り組んでいます | 4 |
| 「まつのかふえ」で“わ”を広げたい! | 6 |
| 紫野児童館の一押し事業 | 7 |
| 日常生活自立支援事業 生活支援員にさく | 8 |
| ボランティア合同研修会 レク編 ~ 小ネタの引き出しをいっぱいしよう ~ | 10 |
| 生活支援センター事務所移転のお知らせ | 11 |

目の不自由な方のための音声コードです。専用の読み上げアプリで読み取ることで内容を音声で聞くことができます。



音声コード「Uni-Voice」

こころつながる作品展

～ 2025(令和7)年11月19日(水)～11月27日(木)開催 ～ ※日曜、祝日除く

京都市・区社会福祉協議会では、共に生きる福祉のまち「京都」の実現を目指して、多様な課題を抱えた方や孤立しがちな方の社会参加に取り組むために kyoto こころつながるプロジェクトを実施しています。その一環として、参加支援部・自立支援部・福祉ボランティアセンター等の事業でつながりのある方や団体に呼びかけ、「お気に入り」や「日常」、「気持ち」などを表現した作品展を開催しました。



「好きなことを通して楽しくつながる」

作品出展者の声

今年で5回目になる「こころつながる作品展」ではこれまで以上に多様な参加のカタチが実現しました。その参加のカタチの一部をご紹介します。



いちろ
 ＊一縷の光に向かって＊
 ストレスによる持病の悪化でうつ症状も出ていたせいか人と話すことさえできなくなってしまった時期が何年も続きました
 病気のことも 自分のこの先の人生のこともすべてひとりで抱えたままひたすら「このまま乗りたくはない」という強い信念だけが自分自身の支えになっていました
 それが今は自ら人との交流を望み好きでも嫌いでもなかったピアノに癒されるまでになりました
 それは私にとって「奇跡」でしかありません
 まだ誰かに聴いてもらえるような演奏はできないけれど今の自分の気持ちを表現してみました

音楽を通した参加のカタチ ～ピアノ演奏CDを出展したOさんのキモチ～

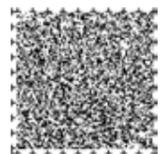
私は物は作れないけどピアノなら参加できるかな?と思い、自分の力が発揮できるかチャレンジしてみようという気持ちで参加しました。私にとってピアノは癒し。自分が弾いた曲が誰かの耳に届き、好きや癒しの気持ちが伝わるという思いを込めて CD に収録しました。来場した方々に聞いてもらえたことは、私にとって思いもよらない経験になりました。音楽を通じて人とのつながりができたことがステキでした。



みんなで協力して1つの作品を作り上げた参加のカタチ

～複数人で制作した藤の花を出展したKさんのキモチ～

楽しそう、やってみたくらいという気持ちと、私にできるかなという不安な気持ちで参加し、1人で作るよりも、複数人で作っている方が「皆で作っている」ということが感じられて良かったです。



伝統工芸を通した参加のカタチ ～水引作品を出展したSさんのキモチ～

これまでも水引を使った制作活動をしていて、自分の作品を色々な人に見てもらいたいという気持ちになりました。水引は「人と人を結ぶ」という意味があり、結び方も様々です。「水引結び検定」も取得したので、京都で水引をもっと広めたいと思っています。たくさんの方に見ていただくととても嬉しかったです。

団体の想いを形にした参加のカタチ

福祉ボランティアセンターが関わる東山区「不登校・ひきこもりを考える親の会」「シオンの家」、女性支援団体の「なないろ会」、上京区でひとり親家庭・ヤングケアラー家庭支援をおこなう「おかえり食堂」の3団体から出展がありました。



～女性たちが集まる「ミモザの会」で制作したつまみ細工を出展したNさんのキモチ～

ひとつひとつの作品を寄せ集めてウェルカムボードが完成! 大きな作品になるってステキだなと思いました。

写真や絵画、手芸品など113点の作品を展示し、たくさんの来場者楽しんでいただく事ができました。今後も、発信する喜びや人とのつながりを感じられる「多様な参加のカタチ」の実現を目指していきたいと思います。

こころつながる作品展の様子を各種SNSで公開しています!

Instagram <https://www.instagram.com/kyotsunagaru>

X <https://x.com/kyotsunagaru>

Instagram



X



参加支援部のSNSを始めました!

Instagram

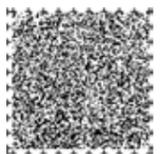


X



来場者の声

- ゆっくり流れるやさしい音楽に癒されながら作品を楽しく見せていただきました。
- ステキな作品ばかりでした。みなさんの世界をより輝かせてほしいと思いました。
- 皆さんの思いが込められた作品ばかりで圧倒され、心が和みました。



地域とのつながりづくりに取り組んでいます



京都市内の福祉・介護・保育分野の7団体611施設が加入する京都市社会福祉施設連絡協議会が、2025(令和7)年10月17日にキャンパスプラザ京都にて、「令和7年度地域公益活動推進シンポジウム」を開催。「社会福祉施設が地域とできること～身近な地域とつながる～」をテーマに、福祉施設関係者らが多数参加しました。

※地域公益活動：社会福祉法人では、その公益性・非営利性を踏まえ、施設の特徴や実状にあわせながら地域における公益的な取組を推進しています。

はじめに、コーディネーターの大谷大学教授志藤修史氏から、社会福祉施設とは元来地域と共に歩んできた公益的な存在であることを確認した上で、今、地域公益活動※に取り組む意義について、「施設職員の実践や利用者の生活をより豊かにするため、施設利用者やその家族の生活の場である地域との交流は欠かせない」とありました。

実践報告では、京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設西七条施設長の舌洋一氏から「キョーカイを超えて、しせつをひらく」と題し、取組を通

して無理なく地域と長く関わる秘訣を紹介。

続いて、西陣会 法人本部事務局次長の小西和氏から「みらいの西陣を考える」と題し、施設の建て替えを契機に地域と共に新たなつながりづくりを目指す取組を紹介。

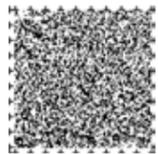
グループ討議では、「自施設らしい地域公益取組で身近な地域と協働していること(できそうなこと)」をテーマに、参加者同士が活発に意見交換。分野を超えた施設間の連携や新たなアイデアが生まれる場となりました。

舌さんに学ぶ

施設をひらき つながり続ける



地域と高齢者福祉施設西七条の交流の始まりは、十数年前の消防団員不足に困る地域からの協力依頼がきっかけ。以降、施設が一町内会として自治連合会に加入し、会合や行事に参加しています。しくみがあるので職員が変わっても引き継がれ、私も施設長として赴任すると同時に町内会長として地域と関わる機会がありました。施設は地域へ開き、地域は施設を受け入れる。様々な場面でお互いの理解を重ねて長くつながってきました。



▲コロナ禍を経て、施設を地域にひらくべく西七条祭を再開。施設をひらくことが多様なつながりに広がっています。また、施設を超えて団体・事業所・学校・行政等と共にやさしいまちづくりを目指す場もあります。

小西さんに学ぶ

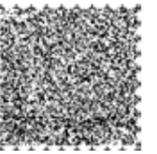
「福祉」と「暮らし」が織りなす、 新たな拠点へ



60年以上前、普段の暮らしの困りごとから法人の取組が始まりました。西陣織業界で働く若者の居場所に始まり、放課後を過ごす学童保育、障害のある子と親の支援など、取組から福祉事業が増えていきました。一方で、昨今の地域課題に対してできることを考え、事業の枠を超えて地域とつながる取組も継続しています。施設の建て替えを契機に寄せられた声から生まれた「おもしろくて小さなチャレンジ」も続々と進行中。とりえずやってみたら、意外に楽しくできています。



▲みんなで一緒に未来の西陣をつくる拠点でありたい。地域の活動交流の場「上京朝カフェ」の会場として施設を提供。地域の活動者と一緒に取組の情報を交わしました。



志藤先生に学ぶ

強みを活かして場をひらき、 無理なく楽しくつながる

地域公益活動の目的は、利用者・地域・施設が、win-win-winの関係でつながり続けること。新しいことを始めなくても、既存事業の延長線上でできることでもいい。施設の中で「地域との交流」があたり前になっていると続けやすい。

活動を始めるには、みんなで持ち寄り、無理せず楽しく一度やってみること。空間(場)を持っていることは、施設の最大の強み。この場を活かしてほしい。始める

きっかけは「地域に頼まれて」や「思いつき」でよくて、「やってみよう」と一歩踏み出すことが重要です。

施設も地域も、担い手不足や運営の難しさなど苦しい状況です。今、一歩踏み出すことを考えないと、どんどん閉塞感の中に閉じ込められ、実践も地域や利用者の生活も豊かにはなっていないと思うのです。場をひらいて「お互いに持ち寄り楽しく作る」ことを心がけながら、活動を広げていただきたい。



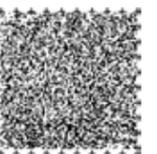
京都市社会福祉施設連絡協議会とは

京都市内の社会福祉施設の分野横断的な充実・発展のために、昭和55年に設立されました。社会福祉施設7団体(保育園・老人福祉施設・知的障害者福祉施設・児童養護施設・母子生活支援施設・児童館・身体障害者福祉施設)で組織され、運営に関する調査、地域社会との連携、関係官庁等との連絡協調、従事者の研修及び福祉の増進等に関する取組を行っています。

京都市社会福祉協議会地域支援部が事務局を担っています。



▲2025(令和7)年度には、福祉職場の魅力を伝えるパネルを制作しました。各分野の現場で働く職員の声から、福祉の仕事のやりがいや醍醐味が伝わってくる内容となりました。



「まつのきかふえ」で “わ”を広げたい！

3棟707戸で構成される松ノ木町団地の1階にある集会所で、団地に住んでいらっしゃる方を対象に毎月第3木曜日に“まつのきかふえ”という、おしゃべりカフェを開催しています。

この団地で孤立させない!をスローガンに、この地域の老人福祉員をしているご夫婦、ケアマネジャーの方々、陶化地域包括支援センター、そして、この地域に関係する様々な機関の方々がスタッフとなり、“自然なつながり”を持てるように、時には専門的な知識を発揮しながら運営しています。手作りの夏祭り、運動会、クリスマス会などの定期的なイベントに加え、老人福祉員主催の洋服や家具などのリユース譲渡会などの不定期なイベントも行われています。

リユースで出された洋服の袖や裾直しを裁縫の得意な奥様がしてくださったり、リユースでカーテンがでると「隣の〇〇さんのところに持って行ってあげて〜」という声が出たり、向かいの〇〇号室の方が入院した、などの情報を教えてくださったり、「また来月会いましょう〜」と言っている方がいたり…

確実に、まつのきかふえの“わ”は広がっています。



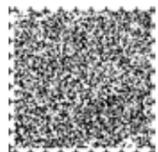
秋の運動会 ①

ボールを当てた賞品がもらえます。スタッフが説明して、介助をしながらボールを投げてもらおうとしている様子です。

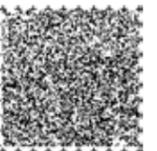


秋の運動会 ②

お茶を飲み、お喋りをしながらのんびり運動会を開催している様子です。



紫野児童館の 一押し事業



世代をつなぐ ふれあい卓球大会

紫野児童館は、京都市北合同福祉センターの中にあり、他施設と連携しながら異世代交流を大切にしている事業を行っています。中でも特に人気なのが北老人福祉センターの皆様と保護者の皆様と一緒に「ふれあい卓球大会」です。

大会にむけて館内では「卓球週間」を設け、子どもたちが練習に励みます。最初はラケットの持ち方も分からなかった子どもたちが、上の学年のお友達やボランティアとしてきていただいている北老人福祉センターの方に教えてもらいながら、少しずつ上達していきます。「ナイスサーブ!」「今のギリギリを狙ったスマッシュすごいね!」と練習のうちから声をかけあうことで子どもたちの顔にも自然と笑顔が生まれ、もっとうまくなりたいという気持ちが芽生えているように思います。

練習や館内大会を経て行われる「ふれあい卓球大会」では、最初は緊張した顔をみせている子どもたちも、一緒にチームになった北老人福祉センターの方々や保護者の方々と、

チーム名や試合に出る順番を一緒に考える時間を設けることで緊張もほぐれていきます。

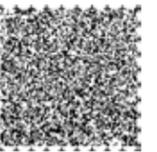
試合後には、お互いに拍手を送りあい、勝てたときの喜びや負けたときの悔しさを共有することで、子どもたちにとって貴重な体験になっていると思います。

大会後には、北老人福祉センターの皆様にお礼カードを届けにいきます。

届け先でも「少し卓球していくか」と声をかけてもらい一緒に卓球をして過ごすこともありました。こういった日常の出来事も交流事業が継続する機会になっています。

この「ふれあい卓球大会」は、スポーツを楽しむだけでなく、お互いを理解しあう学びの場となっており、世代間の交流を深めることで、相手の存在を認めたり、相手の立場に立って考えること、思いやりの気持ちを育てています。また、回を重ねて顔を覚えることで会話も増え、世代を超えた交流の輪が広がっていると思います。参加してくださった方からは「可愛い子どもたちと一緒に遊べて元気ももらえた」「あれから道で会って挨拶してくれる」と感想もいただき、児童館に足を運んでいただく機会にもつながりました。

こうした活動を通じて、人とのつながりを大切にする心をはぐくみ、異世代の交流を推進する取組を継続しながら多世代が集まる児童館をめざしていきたいと思っています。



日常生活自立支援事業 生活支援員にきく

日常生活自立支援事業は、認知症や障害などで判断能力に不安のある人が、住み慣れた地域で安心して生活が送れるように福祉サービスの利用や日常的な金銭管理などを支援する事業です。担い手の生活支援員は、利用者によりそい感謝される一方、日々の支援では思わぬ出来事も。活動の大変さとやりがいについて現役支援員の皆さんに伺いました。その一部をご紹介します。

ことば選びの難しさ

一 松井さんは活動歴4年目で、現在4人を担当しています。市田さんは活動歴7年目、5人を担当しています。まずは活動を始めたきっかけと、支援で大変なことについて教えてください。

● 市田 私は、市民しんぶんで生活支援員養成研修の開催案内を見たのがきっかけでした。もともと新しいことに踏み出すのがものすごく苦手で、研修もドキドキでした。先輩支援員に「やってみんことにはわからん、あかんかったらやめたらええねん」と言われて、とりあえずやってみよう。

最初はお金の計算のときに私が「あ、しもた！」と言葉に出すので、利用者不信感をもたれてしまいました。何を言っはいけないとか、いまだに自信はありません。

● 松井 私はコロナの時期に、地域の回覧で生活支援員募集の記事を見つけて応募しました。

私が気になるのは相手が理解しやすい言葉の選び方ですね。例えば、アルコール依存症の利用者で、酔っている時はこちらの言葉をちゃんと理解してもらえないことがある。途中で「もうわからへん！」ってビャーって帰っていかはることも。ほな区社協に電話がかかってきて「お金がないから支援してくれ」って。次の日もういっぺん支援したりして。

一声のかけ方が難しいということですね。利用者への対応で心がけていることはありますか。

ちょっとずつ 焦らずに

● 松井 私は基本的に“深く入り込まないでおこう”って思っているんです。でないと「がんばって」って言うてしまいたくなる。「もっとがんばれ」って。でもそれを言うたらあかんのはわかっている。がんばってはるんやから。お金も、あるだけばーっと使ってしまったら、通帳見たら残金3円とか。初めて見たときは「えー!？」って。なんぼうちも金ないっていうても、こんな1桁いう通帳見たことなかったんです。このごろ、私もだいたい慣れてきました。「来月の保護費入ってから払おうかー」「なかったらないなりにしてくださいね」とね。「あれが買いたい」言わはんのだけど「いやあ、ちょっと3円ではねえ」。淡々と言うようにしてます(笑)。本人はわかっはるから、「そうなんです」って言わはる。「松井さん信用できる」って、いろんなこと喋ってくれる。楽しいですよ。

「買いたい」そのために「お金を貯めたい」という気持ちになったら、ちょっと前進。「ちょっとずつね、焦らんでもええしね」って言うたら、「そうする」と。その方とはわりと良好に話ができるかな。



● 松井弘子支援員



● 市田素子支援員

幸福感が見えたら、それが一番

● 市田 私は、利用者さんの行動でよいと思ったことは、まずは思い切り褒めて、思いを伝えるようにしています。たとえば、仕事を続けられていたら、拍手して褒める。続かなくなってきたら、「趣味に使うお金を稼ぐために、頑張って仕事に行こうね」などと伝え方を変えてみます。

でも私が毎回仕事のことを聞くと、だんだんそれが嫌になって「仕事のことは一切口にするな」と言われたことも。そのときは「買いたいものが買えないよ」って言うてみたら「市田さん、もう来るなー！」って(笑)。

どういう言葉かけをしたらよいか考えるのは、お

もしろいところもあるんです。利用者が変わっていくところを見てみたい。嫌われても(笑)。

ご本人の幸福感みたいなものが、ちらっとでも見えてきたらいいなと思う。ご本人が少しでも生きやすく、ほんのちよっとでも幸福感が見えるようにするにはどうしたらいいかっていうことを、これからは考えていきたい。いい瞬間があったら、それが一番。それが見えたら私も楽しくなるし。

一 この事業の利用相談は年々増加しています。必要な支援を届けるために生活支援員の確保は重要な課題となっています。生活支援員について詳しくは、京都市社会福祉協議会 自立支援部までお尋ねください。

▶ 生活支援員の資格要件

- ① 概ね20歳から満75歳未満の方
- ② 社会福祉に関心のある方
- ③ 月1回～週1回程度の活動可能な方
- ④ 生活支援員養成研修を受講した方

▶ 京都市社会福祉協議会では生活支援員を募集しています

日常生活自立支援事業や生活支援員の募集についての詳細は、本会ホームページをご覧ください。電話で本会までお尋ねください。

ホームページ

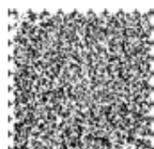


▶ 生活支援員の仕事

- その1 お困りごとを聞く
- その2 家計のやりくりの相談
- その3 出金や各種支払いの同行・代行
- その4 郵便物の管理

【問い合わせ先】

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
自立支援部
電話：075-354-8734



「ボランティア合同研修会 しゅ編」 ～小ネタの引き出しをいっぱいにして～



長寿すこやかセンターが活動を支援する「いきいき筋トレボランティア」、「すこやか体操インストラクター」、「生きいきサロンサポーター」を対象に、レクリエーションに関する研修会を2025(令和7)年7月4日に開催しました。

今回は「小ネタの引き出しをいっぱいにして」というテーマで、レクリエーションインストラクターの田邊幸子さんや職員指導のもと、特別な道具を使わずアイスブレイキングとしても取り入れやすく、短時間でも楽しめるレクリエーションを学んでいただきました。

当日は1部2部合わせて127名が参加され、いつもの活動仲間も初対面の方も一緒になって大盛り上がり! 最初は声を出すことに抵抗のある方もおられましたが、最後はみんなで大合唱となりました。

この日学んだレクリエーションは、早速それぞれの活動で活用していただいています。



いきいき筋トレボランティアや、生きいきサロンサポーターでもある田邊さん。「自分が心の底から笑い楽しまなければ、参加者ははじけない!!」をモットーに活動されています。この日は「りんごの唄」の手話と合唱や、大声を出しながらの後出しジャンケンなどを、会場内が一体化するような独特の語り口で楽しませていただきました。



いきいき筋トレボランティア

自体重を使った筋力トレーニングを中心とした運動プログラム「いきいき筋トレ」を普及推進

すこやか体操インストラクター

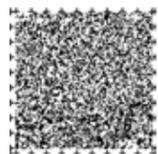
数え歌に合わせて誰もが行える「すこやか体操」を普及推進

生きいきサロンサポーター

老人福祉センターで開催する「生きいきサロン」でレクリエーションや運動などを行う

【各ボランティアに関するお問い合わせ先】

京都市長寿すこやかセンター 電話：075-354-8741



生活支援センター事務所移転のお知らせ

この度、生活支援センターは2026(令和8)年1月5日(月)から、ひと・まち交流館 京都に事務所を移転いたしました。

引き続き生活支援センターでは、新型コロナウイルス特例貸付の償還(返済)相談を通して、就労や家計改善等に関する支援機関へのつなぎ、生活保護等の各種手続きの支援をはじめ、生活での様々なお困りごとに寄り添った相談支援を行っています。まずはお気軽にご相談ください。

新事務所

ひと・まち交流館 京都 1階

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1

TEL : 075-354-8709

(平日 9:00 ~ 16:00 / 年末年始・祝日除く)

FAX : 075-354-8776

メール : seikatsushien@kcsw.jp

※受付時間外のFAX、メールは翌日以降の対応となります。

※休館日：毎月第3火曜日(国民の祝日にあたる場合は翌日)

新型コロナウイルス特例貸付の償還(返済)について



福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度

「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、
京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合保険代理店 **SRM 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険ホームページ **www.srm-net.co.jp/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。

詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

